



高鷺小学校 学校だより

2019年12月号

夢に向かい 共に創る子

すすんで学習

思いやりの行動

あいさつ・言葉づかい

成 長

校長 野々田光則

12月中旬のことです。寒い日でしたが、楽しそうにスキップで体育館に向かう4年生の男の子を見ました。途中で出会う女の子にも、軽く手を振っていました。次に何か楽しみがあったのスキップだったのでしょう。

高鷺小の多くの子が「学校が楽しい」（児童アンケート結果より）と思って登校してくれています。そんな子どもたちを見る中で、この12月までにたくさんの成長がありました。

1年生は、学級の友だちの変化に気づいて言葉をかける子が増えてきました。そして友だちがかけてくれる言葉に喜んだり時に悩んだりと感受性を高めている子がいます。

2年生は、授業中の友だちの発言から自分の意見を確かめたり、考えを膨らませたりする子が増えてきました。友だち関係が思うようにいかなかった時でも、自分を振り返り、自分の気持ちに向き合える子が出てきています。

3年生は、笑顔で元気よく挨拶ができる子が多い学級です。進んで挙手ができること、友だちの意見を自分の意見と比較して考えを深める子が多くなってきました。

4年生は、教室でも外遊びでも「みんなでやろう！」と友だちと楽しく活動しています。児童会の活動も高学年に教えてもらいながら、5年生に向かう意識を高めています。

5年生は、縦割り班の活動で6年生と同じくらいリーダーシップを発揮しています。低学年への優しいアドバイスなど、その子の様子に応じて接する子が増えてきました。

6年生は、高鷺小の全校リーダーとして常に意識をもって、全校にたくさん働きかけてくれました。取組から自分を深く見つめる心が育ち、集団を通して自分を鍛えています。

4月から「安心・安全な学校づくり」を土台として教育活動を行ってきました。ありがたいことに、子どもたちは大きな怪我や病気もせず、元気に学校に通ってくれました。もちろん「行きたくない」と思った時も、自分の気持ちを改め直したり、保護者の方から励ましてもらったりして、学校に来てくれたのではないかと思います。

年明けの1月から3月までの学校経営のキーワードは「自立」です。それぞれの学年の出口に向けて、「一つでも多く、自分で考えてやってみること」。それが失敗であっても時間がかかっても、自分でやろうとする意欲や、やってみて分かることを増やしていきたいと思います。

1月8日、子どもたちが希望や願いをもって学校に登校してくれることを期待しています。よいお年をお迎えください。

